

モニタリング結果報告書 (平成29年度)

1. 施設概要

施設名	津久井やまゆり園 (芹が谷園舎)		
所在地	相模原市緑区千木良476番地 (横浜市港南区芹が谷2-1-1)		
サイトURL	http://www.kyoudoukai.jp/		
根拠条例	神奈川県立の障害者支援施設に関する条例		
設置目的(設置時期)	障害者総合支援法第5条第11項に規定する障害者支援施設		
指定管理者名	社会福祉法人かながわ共同会		
指定期間	H27. 4. 1～H37. 3. 31	施設所管課	障害福祉課

2. 総合的な評価

総合的な評価の理由と今後の対応	
<p>利用者家族の満足度はS評価となった。 平成28年7月26日に発生した津久井やまゆり園事件に伴い、平成29年4月に芹が谷に移転し運営体制が大きく変化した。「利用状況」については、定員数減により、利用者数の前年度比較での評価はできないため対象外とする。「収支状況」についても、予算編成当初には想定できなかった状況が生じており、評価の対象外とする。 平成29年度より、横浜市内の施設に移転し、新たな地域で、新たな運営基準で事業を実施している。これまで培ってきた知的障害者支援の知識と経験を活かし、地域とも連携し、様々な障害特性に合わせた質の高いサービスを提供することにより、県立福祉施設としての役割を果たしてもらいたい。</p>	
<p><各項目の詳細説明></p> <p>【管理運営等の状況】 平成28年度に発生した事件の影響で、平成29年度より横浜市港南区に所在する県有施設に仮移転した。支援環境等が大きく変化したため、利用者が安心・安全に生活できる支援に取り組み、落ち着いた環境整備に努めた。</p> <p>【利用状況】 仮移転に伴い、定員を150名から114名に縮小、短期入所サービスは休止とした。利用状況の対前年度比は、94.8%となった。なお、新規入所の受入れを停止し、短期入所を休止している。</p> <p>【利用者の満足度】 重度の知的障害のため、4段階評価による評価は困難であることから利用者家族を対象に満足度調査を実施。利用施設移転や支援体制の変化があったが、上位2段階の回答割合が92.3%となったため、S評価となった。 回収率は47.7%で、昨年度とほぼ同率であった。</p> <p>【収支状況】 新規入所を休止しているための給付費収入の減とともに、職員の通勤手当等の支出が当初の見込み額を大きく上回ったため、収支差額が当初予算比で大幅減となっている。</p> <p>【苦情・要望等】 苦情が1件。病院の説明や園の対応についての苦情。説明が不十分だった点について謝罪し、病院と連携を図る旨説明を行った。</p> <p>【事故・不祥事等】 ひやりはっと報告書、事故報告書の集計と分析等を行い、事故の未然防止に努めている。</p> <p>【労働環境の確保に係る取組状況】 県による監査、労働基準監督署からの指摘事項はない。</p>	
3項目評価	<p>S：極めて良好 A：良好 B：一部改善が必要 C：抜本的な改善が必要 ※3項目評価とは、3つの項目（利用状況、利用者の満足度、収支状況）の評価結果をもとに行う評価をいう</p>
—	

3. 月例・随時モニタリング実施状況の確認

月例業務報告 確認	遅滞・特記事項があった月	特記事項または遅滞があった場合はその理由
現場確認	実施日	特記すべき事項があった場合はその内容
	適宜	
随時モニタリングにおける指導・改善勧告等の有無	有・ 無	指導・改善勧告等の内容

4. 管理運営等の状況

[指定管理業務]

事業計画の主な内容	実施状況等	実施状況に関わるコメント
多様な障害特性に合わせた特色ある施設運営を目指します。	平成29年4月に芹が谷園舎に仮移転した。生活環境が一変し、一つ一つ安全を確認しながら取組み、芹が谷の生活に利用者職員ともに慣れていくことができた。制限がある環境の中ではあるが、職員の熱意、努力及び神奈川県のパックアップにより、日中活動や行事等にも取り組んだ。	利用者の安心・安全につながる支援の提供に努めている。
人権擁護の理解促進を図るため職員の資質向上に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・人権委員会（あおぞら委員会）、虐待防止委員会を開催し、人権意識を高める取組みを行った。 ・支援の振り返りシートを活用、セクションごとに振り返りを継続すると共に、人権擁護に関する研修も実施した。また、職員人権アンケートを継続して実施した。 	施設移転後、一時中断していた人権擁護の研修を再開するなど、職員間の連携とともに、人権擁護の意識啓発に努めている。
積極的な地域貢献として地域サービス事業を展開・拡充を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域自治会を対象とした、有資格職員による救命救急講習会の実施。 ・地域イベントへの参画や、園開催行事の案内など積極的に交流を実施した。 	施設移転後、積極的に地域との連携を図っている。引き続き、地域との連携強化に努めることを期待したい。
在宅障害児者支援のために地域関係機関とのネットワーク構築をはかり、相談支援体制を強化します。	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援利用件数。障害者413件。障害児224件。合計637件。芹が谷園舎への仮移転に伴い、来訪、来所、電話等の従来のような相談は大幅に減少したが、津久井やまゆり園再生基本構想に基づき、入所利用者の意思決定支援へ向けた準備に取組むとともに、港南区社会福祉協議会高齢、障がい、児童施設分科会等への参画や相模原市においても、引き続き相談支援事業所連絡会等へ参加を継続した。 	施設移転に伴う事業縮小や休止が継続しているが、対応可能な範囲での取組を継続して実施している。

[参考：自主事業]

事業計画の主な内容	実施状況等

5. 利用状況

評価	《評価の目安》 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。 社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄に代わりとなる数値（定員数等）があれば記載してください。
—	

	前々年度	前年度	平成29年度
利用者数※	53,663	40,889	38,751
対前年度比		76.2%	94.8%
目標値	150	150	114
目標達成率			

目標値の設定根拠： 社会福祉入所施設であり目標値の設定が困難であるため施設入所の定員数を記載

利用者数の算出方法（対象）： 施設入所者の延べ人数（H28までは定員150名 H29は114名）

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

6. 利用者の満足度

評価	《評価の目安》 「満足」（上位二段階の評価）と答えた割合が、S：90%以上 A：70%以上～90%未満 B：50%以上～70%未満 C：50%未満 ※評価はサービス内容の総合的評価の「満足」回答割合で行う
S	

満足度調査の実施内容	協定に定めた調査内容	実施結果と分析
	簡易調査、定期調査	平成30年1月13日から平成30年2月17日の期間に実施。施設入所利用者の家族宛に調査票を手渡し又は郵送にて配布した。概ね満足との評価結果であったが、回収率47.7%（昨年度より0.3%減）であった。

[サービス内容の総合的評価]

質問内容 現在、津久井やまゆり園の運営体制・支援体制に満足していますか

実施した調査の配布方法 直接配布・郵送 回収数／配布数 52 / 109 = 47.7%

配布(サンプル)対象 施設利用者の家族

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	合計	満足、不満に回答が あった場合はその理由
サービス内容の総合的評価の回答数	29	19	2	2	52	
回答率	55.8%	36.5%	3.8%	3.8%		
前年度の回答数	24	14	9	0	47	
前年度回答率	51.1%	29.8%	19.1%	0.0%		
回答率の 対前年度比	109.2%	122.7%	20.1%	0.0%		

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

7. 収支状況

評価	《評価の目安》 収支差額の当初予算額：プラスの施設が該当 収支差額の決算額／収支差額の当初予算額の比率が S(優良)：105%以上 A(良好)：100%～105%未満 B(概ね計画どおりの収支状況である)：85%～100%未満 C(収支比率に15%を超えるマイナスが生じている)：85%未満
—	

[指定管理業務]

(単位:千円)

		収入の状況				収入合計	支出の状況	収支の状況	
		指定管理料	利用料金	その他収入	その他収入の主な内訳			収支差額	収支差額の決算額 /収支差額の当初 予算額
前々年度	当初予算	374,024	819,755	16,053		1,209,832	1,097,371	112,461	
	決算	374,024	854,646	17,006		1,245,676	1,055,959	189,717	168.70%
前年度	当初予算	374,024	890,445	17,026		1,281,495	1,186,019	95,476	
	決算	374,024	677,166	19,234		1,070,424	1,057,807	12,617	13.21%
29年度	当初予算	261,057	632,472	18,025	備考欄参照	911,554	908,978	2,576	
	決算	261,057	623,840	18,536	備考欄参照	903,433	951,805	-48,372	-1877.80%

※支出に納付金が含まれる場合、その内数

(単位:千円)

29年度 / 前年度 / 前々年度 /

<備考>

○29年度

当初予算

・経常経費寄付金収入 850
・修繕積立資産取崩収入 2,000
・備品等購入積立資産取崩収入 7,300
・その他の収入 7,875

決算

・経常経費寄付金収入 1,612
・備品等購入積立資産取崩収入 9,933
・その他の収入 6,991

8. 苦情・要望等

分野	報告件数	概要	対応状況
施設・設備	件		
	件		
職員対応	1 件	<ul style="list-style-type: none"> 千木良（相模原）で利用していた病院と比べ、芹が谷（横浜）で利用する病院は家族の対応が多く負担感が大きい。 園から病院に対し、障害程度や支援方法等を説明し、入院した利用者の状態に応じた看護対応を依頼して欲しい。 	『施設職員が間に入らず、病院はまず家族に話をする』という病院の方針があり、千木良（相模原）で利用していた病院との違いについて、園からの説明が不足していたことを謝罪する。病院と連携を図ることについても改めて説明し了解を得た。
	件		
事業内容	件		
	件		
その他	件		
	件		

※指定管理者に起因するものを記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

9. 事故・不祥事等

発生日	①発生時の詳細な状況 ②県職員による確認の状況（内容及び実施日を記入） ③その後の経過（現在に至るまでの負傷者の状況、再発防止策等） ④施設に対する問題点の指摘やクレームの有無（有の場合は概要を記入） ⑤原因及び費用負担の有無（費用負担が有の場合は内容および負担者を記入） ⑥記者発表の有無（有の場合はその年月日を記入）
8月10日	<p>①3月25日～5月9日まで痰詰まりによる誤嚥性肺炎で入院。退院後経口摂取で対応するが、7月8日にサチュレーションの低下とチアノーゼあり病院に通院し、肺炎と宿便性腸閉塞の診断あり。</p> <p>②電話による速報後、事故報告書により報告する。</p> <p>③その後治療としては終了となるが、経口摂取でのリスクがあり、やまゆり園での受け入れは医療体制、職員体制の面でも難しく、7月26日入院中の病院から他の病院に転院となる。転院先病院にて、8月10日の午前中に危険な状態になり、その都度持ち直すが、8月10日に誤嚥性肺炎のためご逝去される。経口摂取のリスクがあり、看護課とも連携して食事の姿勢の工夫や、ご本人の意識レベルによっては食事を中止し、補食で補う等の対応をしてきた。予想以上に機能低下していた状態であったと考えられる。支援員として対応可能なことを外部医療機関を含めた関係各所と連携をして対応していくとともに、ご家族等へも丁寧な対応を心がけていく。</p> <p>④無 ⑤無 ⑥無</p>
11月14日	<p>①トイレ誘導のため居室へ行くと、鍵を開けドアを開けようとしたが開かなかった。異変を感じ、直ちに居室内に入ると、右側臥位になっている状態でチアノーゼを確認したため仰臥位にし、呼吸確認、胸郭確認し動いていなかったため、衣類をゆるめ心肺蘇生を開始する。衣類を脱がしAEDを装着する。電気ショックの必要はなしとなったため、心臓マッサージを再開する。救急車を要請し、救急隊に引継ぐ。</p> <p>②電話による速報後、事故報告書により報告する。</p> <p>③救急車搬送。両親が病院に到着し、課長より今までの経緯を説明する。救命救急の医師から説明を受け、心肺停止蘇生後、低酸素脳症と診断されEICUに入院となる。病院で療養中だったが、11月22日ご逝去。再発防止の観点から、施設内で改めて夜勤帯の1時間置きの定時巡回業務は継続して行っていくことを確認した。又、緊急時に少しでも職員が混乱せず落ち着いて対応できるよう再度、緊急時のマニュアルの確認をする。それと共に、緊急時の対応訓練は今後も実施し取組んでいく。</p> <p>④無 ⑤無 ⑥無</p>

※随時モニタリングを実施した場合は必ずその内容を記載。

※過去に発生したものでも、新たな対応等を実施した場合には、その内容を記載。

※なお、大きな事故・不祥事に関して改善勧告を行わなかった場合は、その理由を併せて記載。

10. 労働環境の確保に係る取組状況

確認項目	指摘事項の有無	備考
法令に基づく手続き	無	
職員の配置体制	無	
労働時間	無	
職場環境	無	

※指摘事項は、県による監査（包括外部監査含む）又は労働基準監督署によるものとし、有とした場合は備考欄に概要を記載。